令和８年度　ときわ会　教育研究発表会
教育実践部門　「道徳」

児童の思いを引き出す道徳授業の実践
～授業構成、対話、ワークシートの工夫を通して～

新潟市立亀田小学校
山田　潤（平成 21 年度）

主張

本実践で特に主張したいことは、児童の「思い」の表出を中心に据えた道徳授業を構成することで、価値理解が深まり、自己の生き方を主体的に考える力が育つという点である。従来の授業で見られた「いいね」で終わる浅い対話や、価値のよさだけを書く振り返りは、授業構成と対話の仕方の工夫で改善できると考えた。

そこで、①複数時間をつなげた授業の構成にすること、②対話の質を高める「スパイダー討論」を用いたこと、③複数時間の学びを１枚ワークシートにまとめ、それらをもとに多様な方法でのアウトプットさせたことの三つを柱として授業の改善を図った。児童は「自由と責任」や「命」について、複数の教材を関連付けながら考えを深め、他者の思いを受け止めつつ自分の価値観を再構築する姿が見られた。

道徳科が求める「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習」を実現するためには、教師自身が授業観をアップデートし、児童の思いを引き出すための構成・対話・表現の工夫を積極的に取り入れる必要がある。本実践はその一つの有効な方法であると考える。